

コロナウイルスに感染しないために

副題：リスクに対する考え方

世の中の人々のリスクへの対応は、「行動」としてあらわれるが、

例えば、使用済み製品の素材化工場においては、

最大のリスク管理は、塀の上で内側に落ちないことを図るのではなく、
塀に近づかないことが、大切である、としている。

ここで塀とは、刑務所のことであり、

会社・従業員は、法律をかいくぐり罰せられないようにするのではなく、順守
するのである。

法律の規定は、「世の中の人に迷惑を掛けない」という、

所謂「道徳」に基づくとの考えもあり、これを順守することが大切である。

コロナウイルスの場合には、感染者が「どこにいるかわからない」との前提にた
てば、罹患するか否かは、その人の行動によって、即ち、次の「行動」によって
大きく変化する。と考えられる。

- 一. どのような人と接触（直近含む）したか。
- 一. どのような人が触れた物（個所）を触れたか。
- 一. どのような人が呼吸した場所の空気を呼吸したか。
- 一. その時間

これは、「人数・時間」の寄与が最大で、その人数・時間の定義は、

「瞬間瞬間に接触（近接含む）する人数と、その時間」

「瞬間瞬間に物（個所）に触れた回数と、その時間」

「瞬間瞬間に同一密閉空間にいる人数と、その時間」

この累計が多いほど罹患率は高くなる。

例えば、最近の統計的データでは、日本国民の感染率は、症状が出ていない人
を含めると、1%強と言われている。

この数値を正しいとするなら、

ゴルフ場で、100人の来場者と、30人のスタッフとすれば、

おおよそ、2人の感染者がいることになり、

この2人の人によって、どのような率で罹患するのだろうか。

飲食店では、30人の人がいる会食場面に3回参加すると、

おおよそ、1人の感染者と同席したことになり、

中国の例では、レストランで食事に同席した人の、「半数」ほどの人が罹患
する。との報告もあり、これが正しいとすれば、

確率的には、6回参加すれば、必ず罹患することになる。このことを示し
ている。

罹患すれば身近な人達にも感染させることを深く認識し、自らが罹患しないよ
うにする。

これが「かしこい」、別の言い方では「自己責任を全うする」ということである。

家にいることを主とし、普段あわない人と会わず、会食をせず、旅行をせず、
の場合は、これらの罹患率が極めて低くなるであろう。

このコロナの時代、自粛が感染防止の最大の武器であろう。

後遺症が50%を超えると報告もあり、決して軽い病気ではないことを自覚す
べきであろう。